



AOA 会長歓迎挨拶

アジア・オストミー協会（AOA）会長

ジョーン・デイヴィッド・カルドサ



友人諸君、代表の皆様、オストメイトの伴侶の皆様、医師の方々、看護師の皆様、オストミー用品企業の代表の方々、そして世界中から来られた国際オストミー協会（IOA）の役員の皆様、1993年の香港大会でアジア・オストミー協会が設立されて以来、初めて日本で開かれるこの国際大会にご参加いただき名誉に存じます。

首都東京の中心にあるこのオリンピック記念青少年総合センターという素晴らしい場所で開かれる第6回 AOA 大会に、AOA を代表し皆様を歓迎いたします。また、インドから来られた国際オストミー協会会長のハリケッシュ・ブッチ博士、同副会長でニュージーランドのバリー・モーガン氏、前会長ディールウェン・ブラッケン女史、その他 IOA ファミリーのご参加を名誉と思い、歓迎いたします。ただ私が唯一残念に思うのは、1993年に香港で AOA が誕生した際に、AOA 調整委員会の初代議長であり、また IOA 側の助言者でもあった方を、私の個人的なゲストとしてご招待しましたがここにおいでになれないということです。その方は私達のよき友人であるニュージーランドのジョーン・オニール氏です。ジョーンがこの歴史的機会に参加できないことを寂しく思います。しかし、たとえここにおられなくとも彼の心はこの大会中私達の思いと共にあって、我々を導いてくれるものと確信しています。

この大会は、これまで1年半以上にわたって、日本オストミー協会の前会長である稲垣豪三氏と現会長新井貢氏が議長として優れた手腕を発揮された企画委員会によって、企画され組織されてきました。私は委員として最初からこの委員会に出席しましたので、我々参加者にとって大会が真に忘れがたいものになるよう、委員全員がいかに真剣に取り組んだかを知っています。この多彩なプログラムを計画された稲垣様、新井様と委員の皆さんのご苦勞に敬意を表します。大会が我々すべてにとって非常に記念すべきものであると共に極めて有益なものになることを確信します。私は、1996年にバンコクの第2回 AOA 大会に参加して以来、AOA がいつの日か日本で最初の国際大会を開くことを夢見ておりましたが、私がオストミーの国際的な場から去ろうとする今日、その夢が実現しました。

この大会を契機に、AOA は新たなリーダーの下、近い将来に全アジアの国々を擁する組織に発展することを確信しています。そうなれば私のもうひとつの夢がかないます。

大会のプログラム・ブックに、AOA 発足の経緯をそれに関与した人々について、簡単な歴史を載せておきました。我々のルーツと創設者の理想を思い起こすことが大切だと思ったからです。これを書くにあたっては、何人かの AOA 発足の前から関与された人たち、とりわけ、1993年9月27日～29日に香港ストーマ協会のおかげでロイヤル・パークホテルにおいて開かれた設立会合で議長を務めた、ジョーン・オニール氏の助けがありました。

最後に、皆さん東京よろこそ。どうか楽しく実り多い大会と滞在になりますように。また、もてなしの心にあふれた人々のいるこの美しい国の滞在を楽しむことをお忘れなく。

皆様、どうもご苦勞様。

ジョーン・デイヴィッド・カルドサ

